



どこでもメール可能という事を先月言ったが、コンピュータに差し込んで使うPHS電話を買った。普段はパソコンに差し込みっぱなしにしておいて、通信したくなったらアンテナを出していつものように通信をすればいい。事務所と同じアドレスだから、光通信と使い分けでも気にならない。これでとりあえず国内は大丈夫そうだ。これでどこにでも持って行けて自由に使える。・・・しかし、しかしなのだが、愛用のパソコン「抱き石君」は実に重いのだ。バッテリーも切れているから電源のコードもみんな持って歩くと6Kgを超える。あとは体を鍛えなければならぬ。50肩もしみじみと痛むし、まあ、頑張らねばならぬ。

両国は毎朝国技館の檣の上から呼び込み太鼓が響き、正面の横断歩道を渡ると、正面奥に優勝賜杯が金色に輝いています。事務所に着くと1階の寄席では寄席幟がにぎやかにはためき、時折寄せ太鼓が聞こえてくる。事務所にはいると南正面の東京湾上を旅客機が次々と着陸していきます。あつという間にまたおとり様も始まってしまうんだろなと気が変にせきます。

今月は選挙があったのでまた1日13時間投票所で詰めていました。5400人の有権者の内3000人も人が来て一日中、雷雨の時も人の流れがとぎれなかった。人の顔をそんなにいつべんに見る機会は少ないので、じっくり見ましたが、まあ、この日に来た人だけが感動するような男はごくごく少なかった。それと午前中は20代の男女はほとんど来なかった。午後になると彼女といちゃいちゃひつついて投票するのもいて水でもぶっかけてやりたかったが、雷雨が突如降ってきたからそれはそれでいい。そんな中で杖をついたおじいさんと一緒に小学生の女の子が来たが、投票箱の前で「ごろろさまです。」ときちんと止まって挨拶して、投票を終わって帰る時もきちんと挨拶していったのが、違和感を感じるくらいの見事さだった。他の人に聞いたら「あの子はいつどこで会ってもきちんと立ち止まってあいさつするのよ。」と言う返事で、どういう家庭か知らないがみんないっぱひとからげに「がきども！」などと考えるのはいけないかも知れないと反省。

投票の終わる5分くらい前になるともうみんな撤退準備でばたばたはじめ、「蛍の光でも流したら。」と提案したら笑われてしまった。いいとおもうんだがな。

投票が終わるともうあとはレースで投票数と残った投票用紙の枚数を検査して、投票箱と必要書類を乗せて開票所へと車で急ぎます。開票所の前はあちこちの投票所から来た車でごった返し、みんな、投票箱などを持って走ります。受付側ももう、臨戦状態で目が血走っている。こんなところで1番2番争ったってなんの役にもたつんのにムダなエネルギーを使うものだと思うが、仕方がないからこっちも走ります。これだけ頑張ると14時間ほどやって時給1071円、まあ、貴重な収入だからうれしかった。

なかなか仕事が続かないから収入もあつたりなかつたりだが、ある時は必死に仕事をやってしまつて、終わりかけるとたいがい次の仕事の目安が立っていないことに焦りが出ます。良くこんな事で一人になってから15年もやってきたと思うほどだが、そろそろ考えなければいけないようになってきたかも知れない。やりたいことをやってきた時期をひとまずたんで、何しろ稼ぐ時期が近づいている。病人もいることだし、安心して暮らすことも大切な事なのだと思つています。